

## 新年ご挨拶

新年明けましておめでとうございます。イスラエルに着任して以来、3度目の新年を迎えました。

昨年は、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、イスラエルも二度にわたるロックダウンを含め、政治・経済・社会の各方面で深刻な影響を受けた一年でした。こうした中、日イスラエル間においても、昨年3月に予定されていた定期直行便の就航延期が象徴するように、両国間の人的交流は著しく制限されることとなりました。

しかしながら、両国政府間では、コロナ禍にあっても電話会談等を通じたハイレベル対話が継続されています。6月には山崎自衛隊統合幕僚長がコハビ参謀総長と、7月には茂木外相がアシュケナジー外相とそれぞれ電話会談を行い、さらに12月には菅総理とネタニヤフ首相との間で電話首脳会談が行われました。

経済分野では、日本企業からイスラエルのハイテク産業への投資は引き続き旺盛とのデータもあります。また、10月にはイスラエル産アボカドの日本向けの輸入が可能となるなど、前向きな動きもありました。

文化面においても、従来型イベントは実施困難な状況が続く中、当館ではオンライン形式による日本の魅力発信に努めております。昨年実施したオンライン・レクチャーには従来以上に多くの参加者を得ることができました。対日理解促進のため、引き続き積極的な広報文化活動に取り組んでまいります。

また、開催が延期された東京オリンピック・パラリンピック競技大会については、本年開催することができるよう、日本政府としても全力で取り組んでいるところです。

日イスラエル両国は来年、外交関係樹立70周年を迎えます。新型コロナウイルスを巡っては、依然、困難な状況が続いておりますが、本年は70周年に向け、更なる弾みをつける年となることを祈念しております。

大使館としては、イスラエル在住の邦人の皆様の安全確保を旨としつつ、あらゆる分野で一層良好な日イスラエル関係を構築すべく、館員一同、力を尽くしてまいりたいと思います。皆様方のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新しい一年における皆様のご健勝をお祈りして、私からの新年の挨拶とさせていただきます。

2021年1月  
駐イスラエル特命全権大使  
相星孝一